

令和7年度秋期 システム監査技術者試験合格発表 分析コメント

(株) アイテック IT人材教育研究部 2025.12.25

10月12日（日）に行われた令和7年度秋期の情報処理技術者試験について、応用情報技術者ほか高度系5試験の合格発表がありました。IPAから発表された得点分布など統計データの分析結果をもとにして、情報処理安全確保支援士試験の分析コメントをお知らせします。

■システム監査技術者試験（AU）

[令和7年度秋期 システム監査技術者試験 統計情報]

応募者	3,183人
受験者	2,245人
合格者	362人
合格率	16.1%

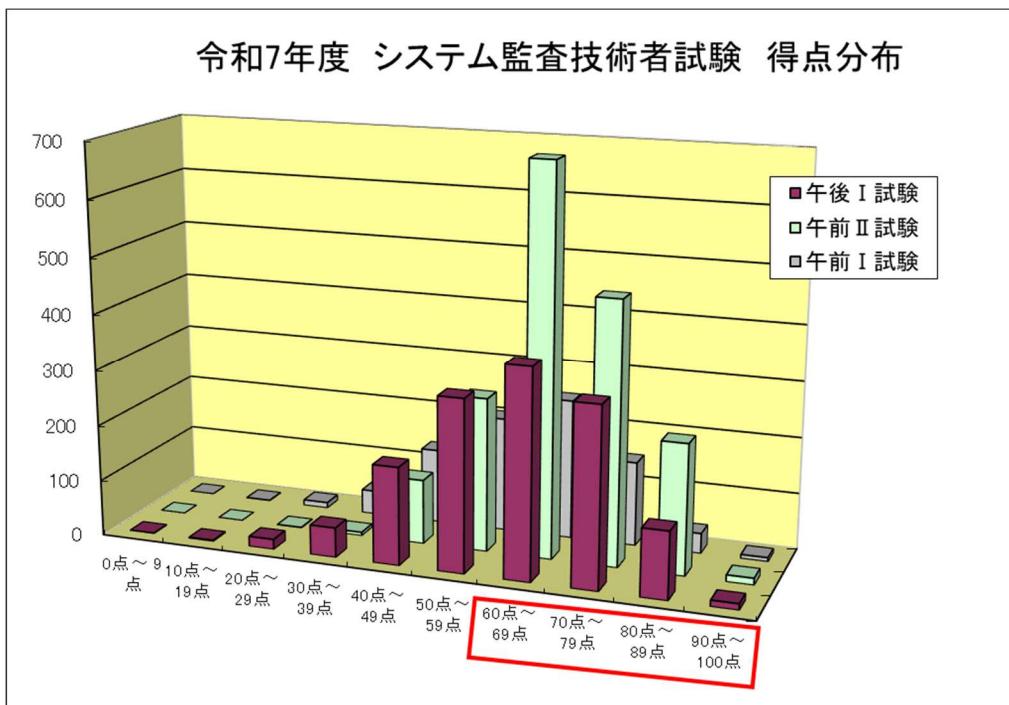
令和7年度秋期のシステム監査技術者試験の合格率は16.1%で、前回の16.7%から微減ですが、令和に入ってからの合格率としては平均的な値でした。最高は前回令和6年度試験の16.7%です。

次に発表された得点分布の分析とグラフを示します。

[令和7年度秋期 システム監査技術者試験 スコア分布]

得点	午前I試験	午前II試験	午後I試験	午後II試験	合格者
0点～9点	0	0	1		
10点～19点	1	0	2	D 37	
20点～29点	10	1	18	C 56	
30点～39点	43	6	53		
40点～49点	133	115	174	B 360	
50点～59点	204	273	305		
60点～69点	249	688	370		
70点～79点	150	466	318	A 362	
80点～89点	36	231	119		
90点～100点	7	12	11		
計	833	1,792	1,371	815	362
対前試験比率		215.1%	76.5%	59.4%	44.4%
午前免除者（概数）	1,412	62.9%			

合格者数	362	採点者数の割合	合格者数との差
午前I 60点以上合計	442	53.1%	80
午前II 60点以上合計	1,397	78.0%	1,035
午後I 60点以上合計	818	59.7%	456
午後II-A評価	362	44.4%	0



午前 I 試験免除の人も増えてきましたが、得点分布を分析してみると、今回午前 I 試験の免除者は概算で 1,412 人 (62.9%) おり、受験者の約 4 割の人が午前 II からの受験となっています。

この午前 I 試験で基準点 60 点以上取ることができた人は 442 人で受験者の 53.1% でした。前回の試験では 74.6% だったので、かなり下がりました。問題が難しかったことが理由と思われます。

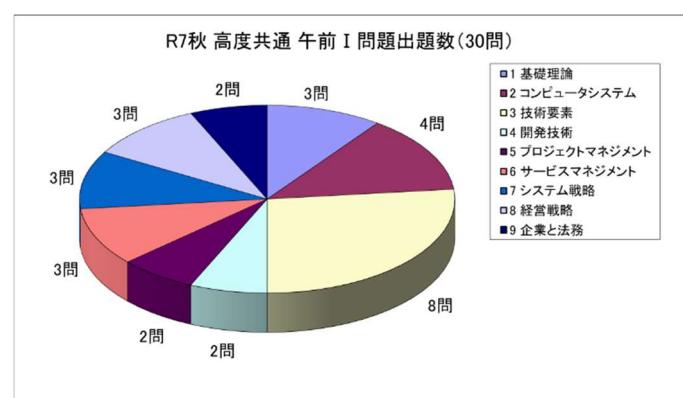
次に、午前 II 試験で基準点以上の人には 1,397 人 (受験者の 78.0%) で前回の 89.3% から減っています。午後 I で基準点 (60 点) 以上取れた人は 59.7% で、前回の 60.2% とほぼ同じです。一方、午後 II で合格点の A 評価だった人は 44.4% で、前回試験の 37.2% と比べてこちらは少し増えました。

■ 令和 7 年度秋期 システム監査技術者試験の出題内容について

[午前 I 試験 (高度試験の共通知識問題)] 30 問出題／30 問解答, 50 分

高度試験で共通して出される午前 I 試験の 30 問は、従来どおり、すべて応用情報技術者試験 (AP) の午前試験 80 問の中から選ばれていて、テクノロジ系 17 問 (57%), マネジメント系 5 問 (17%), ストラテジ系 8 問 (26%) という出題比率です。

午前 I 試験には免除制度がありますが、高度試験を受ける人の約 4 割が午前 I 試験から受験しています。今回の午前 I 試験で 60 点以上の得点で突破できた人は高度試験全体で 40.6% いましたが (前回は 44.6%)、平均的には 5~6 割の突破率なので、今回と前回の試験が難しかったことを示しているといえます。出題範囲が広いため問題を難しく感じる人がかなり多く、最初の午前 I 試験でつまずかないように、早めに試験対策の学習を始め、確実に知識を理解していく必要があります。



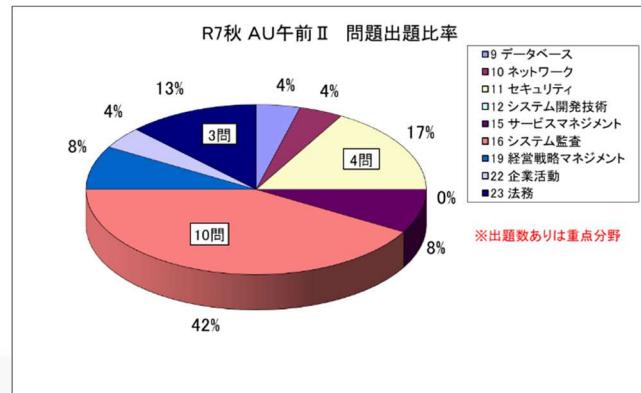
- ・今回の午前Ⅰ試験は、約6割が過去問題でしたが、難しい考察問題が減って、文章問題が増え、前回より解きやすい試験だったといえます。
- ・重点分野のセキュリティの出題数は前回と同じ4問で、最も多い出題数です。
- ・新傾向問題は7問で前回の8問とほぼ同じでしたが、難しい内容のものは少なかったといえます。

(午前Ⅱ試験 (専門知識問題))

監査の専門分野からの出題数は前回と同じ10問で、このところ同じ出題数が続いています。システム監査の事例では、ネットワークやセキュリティの技術を理解している必要があるものが多いので、不足している知識を日頃から身につけていく学習が必要です。また、レベル4で出題されるセキュリティの問題は前回と同じ4問出題されました。

過去のシステム監査技術試験問題で出題されたものは8問で前回の6問から少し増えています。複数の年度から選ばれていますが、令和5年度試験からの3問、令和4年度試験からの2問が、他の年度に比べ多かったです。

システム監査基準とシステム管理基準が令和5年4月に改訂されました。前回の試験からこの改訂版の内容で出題され、今回はシステム監査基準について4問、システム管理基準について1問出題されました。新しいシステム監査基準／管理基準と、各基準のガイドラインについては、内容を十分に理解して試験に臨んでください。



(午後Ⅰ試験)

午後Ⅰ問題の出題内容は、問1がオープンAPI態勢を題材にした設計～運用までの監査、問2がクラウド利用のリスク・脆弱性対策の監査、問3が投資に関して経営者目線が求められる監査の問題でした。問1と問3の問題内容がやや難しいといえますが、設問内容はオーソドックスな監査の論点が出題されていました。

- ・問1 オープンAPI態勢の監査（銀行） 普通～やや難
- ・問2 クラウドサービスを利用したシステムの監査（事務機器製造企業） 普通
- ・問3 IT投資計画について（食料品製造・販売業者） 普通～やや難

(午後Ⅱ試験)

午後Ⅱ問題の出題内容は、問1が情報システム導入の決定過程におけるリスク評価に関する監査、問2は災害を想定した情報システムの業務継続計画の監査についてでした。リスク評価や事業継続計画などをテーマとした問題は過去に出題されたことがあります、今回の問題では記述する内容が幅広くなり、実際の監査経験を踏まえて論述することが求められています。

- ・問1 情報システム導入の決定過程におけるリスク評価に関する監査について
- ・問2 災害を想定した情報システムの業務継続計画の監査について

■令和8年度のシステム監査技術者試験の対策について

次回令和8年度から、応用情報技術者と高度情報処理技術者試験がPCで受験するCBT(Computer Based Testing)になることがIPAから公表されました。従来の記述式の設問もCBTで実施されることになっています。なお、システム監査技術者の午前IとIIの試験はA-1とA-2試験に、午後Iと午後II試験はB-1、B-2試験となり、名称は変わりますが出題内容は変わらないとされています。

まず、科目A-1試験（旧午前I試験）対策で気を付ける必要があることとして、出題範囲が非常に広いため、計画立てなるべく早く早く試験対策を開始する必要があることです。過去の統計情報を分析すると、60点以上取れた人は4割から5割台が多く、問題が難しいときには3割台のときもありました。また、過去に出題された高度の旧午前II試験の難しい問題も出題されることがあるので、過去に出題された応用情報技術者試験の問題を演習として活用して、日頃から知識を増やしていき、余裕をもって7割以上正解できるように理解度を上げてください。学習教材としては、これまで出題された出題内容のポイント事項と必須問題を重点的に解説したアイテック刊行の「2026-2027高度科目A-1・応用情報科目A試験対策書」で効率よく学習を進めてください。

科目A-2試験（旧午前II試験）で専門知識として、システム監査と法務の問題が出題されますが、科目B-1試験で出題される事例問題の内容を理解するための必須知識といえます。応用情報技術者試験で出題されるシステム監査と法務の知識を基礎として、さらに詳細な内容まで理解する必要があります。システム監査基準やシステム管理基準、及びそれらのガイドラインの内容は必須といえますので、必ず読んで理解してください。また、取適法（旧下請法）、情報流通プラットフォーム対処法（旧プロバイダ責任制限法）などの改正された法律や、改正審議中の法律について理解しておきましょう。なお、これまで午前II試験で出題されていたセキュリティの問題は4問で、他の論述式試験に比べて多く重視されているといえるので、この分野の問題も重点的に学習する必要があります。

科目B-1、B-2試験（旧午後I、午後II試験）の対策としては、各問題の出題テーマに関連する専門知識を確実に理解し、問題事例に対して学んだ知識が適用できるようになるまで、しっかり演習を行う必要があります。なお、専門知識の中でも特に重要な内容について解説し、科目B試験問題の解法ポイントを論文試験含めて実践的に解説した参考書として、アイテック刊行の「システム監査技術者「専門知識+午後問題」の重点対策」がありますので、科目B試験対策の教材として、ぜひ活用してください。また、科目B-2の論文試験対策を重点的に行いたい場合は、実際の論文記述例を数多く収録した「システム監査技術者 合格論文の書き方・事例集 第6版」がありますので、この教材もぜひ活用してください。